

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00613

研究課題名(和文)現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究

研究課題名(英文) Cross-Regional Study of Public Morality, Violence and Ruling Authority in Modern Muslim Society

研究代表者

高尾 賢一郎 (TAKAO, Kenichiro)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：20785480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,490,000円

研究成果の概要(和文)：ムスリム社会における風紀の通念とその影響を考察するとの研究目的に沿って、本研究は、東アジア、中央アジア、西アジア、ペルシャ湾岸地域、北アフリカといった広範な地域の事例を通し、現代ムスリム社会における規範の動態性を読み解くことに取り組んだ。また当初の研究計画を超え、本研究では参照項としてキリスト教、ユダヤ教、日本宗教の事例も取り上げた。これを経て、近代、ジェンダー、権力など、宗教と風紀の関係を取り上げる上での共通の問題を浮かび上がらせた。以上の主たる成果は高尾賢一郎・後藤絵美・小柳敦史編『宗教と風紀：聖なる規範から読み解く現代』(岩波書店、2021年1月)として刊行された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では現代社会における宗教の規範を、私的領域に留まるものでも、公的領域で制度化されたものでもなく、社会において守るべきとされる、あらゆる当為の法則に溶け込んだものと捉えた。この上で主たる成果(『宗教と風紀』)では、宗教の規範を公と私の枠組みを超え、宗教・地域を横断して論じるための視座の提示を目指した。これにより当該成果は、特定の宗教や地域についての専門性に加え、当該問題を宗教学、宗教社会学、歴史学、人類学、地域研究等の複合的な視点から分析する学際的価値を有した。加えて、当該成果には日本の排外主義やジェンダーギャップなど、今日的関心に応える研究も含まれており、十分な社会的意義も持ち得た。

研究成果の概要(英文)：Along the purpose, to study the concept of public morality in Muslim society, this research project studied the dynamics of rules in modern Muslim society, from the cases in east, central, west Asia, Persian Gulf, north Africa, etc. Besides, beyond the original plan, this project also embraced the cases of Christianity, Judaism, and some Japanese religions. Thus, several issues such as modernity, gender, power and violence emerged as the common "topos" to discuss about the relationship between religion and public morality. These discussions were published as one of the main products of this project, as Religion and Public Morality: Sacred Rules in the Modern, Kenichiro Takao, Emi Goto, Atsushi Koyanagi (eds.), Iwanami-shoten, January 2021.

研究分野：宗教学、現代イスラーム思想・社会史

キーワード：共産主義 近代 権力 ジェンダー 宗教法

1. 研究開始当初の背景

イスラームは教義を通じて社会および個人の生活全般にかかわる道德観・行動規範を提供する。ただし、今日世界に16億人以上といわれる信徒を擁するイスラームは、固定化した教義とは必ずしも一致しないあり方を時代・地域ごとに呈してきた。これを受けてわが国では、1990年代後半に文部省(当時)による「イスラーム地域研究」プロジェクトが開始し、教義と時代・地域性を照らし合わせてイスラームの動態性に着目する研究が進められた。教義と時代・地域性は互いを取り込み、この上で緩やかな、しかし一定の外在性・拘束性を持った道德観・行動規範が生産・共有される。本研究の核心には、固定化した教義とは異なるこの通念をどう対象化できるかという疑問があり、これを「風紀」と設定することで対象化することに取り組んだ。

風紀を直接対象とする研究は国内外で皆無といえるが、類似の概念を扱う思想研究や関連する政治・社会史研究は存在する。とりわけ海外では風紀の通念と比較可能な公共善や道德論・正義論の蓄積があり、ムスリム社会に関しては統治論の古典を背景に、風紀取り締まりの歴史の実態や特定地域の風紀形成を扱う研究も多い。また風紀が影響を及ぼす領域として、本研究では暴力・統治に注目した。宗教思想と暴力・統治の関係を論じる研究は国内外に多く、ムスリム社会に関してはジェンダー研究が特に目立つ。

2. 研究の目的

イスラームは固定化した教義を持つ一方、時代・地域ごとに多様なあり方を呈してきた。このためムスリム(イスラーム教徒)社会では緩やかな、しかし一定の外在性・拘束性を持った道德観や行動規範が生産・共有される。本研究は、教義に基づくが固定化していないこの通念を「風紀」と設定し、現代ムスリム社会における風紀の通念と、風紀の通念が暴力・統治に及ぼす影響について、地域横断的な調査・分析を通じて解明することを目的とした。本研究では風紀を、公共領域で形成・維持すべき一種の聖性と考え、この形成過程を風紀取り締まり制度やイスラーム以外の政治・社会思想との関係を通じて考察した。そしてこの上で、性秩序・規範や身体刑をはじめとした暴力・統治にかかわる諸現象を、風紀の反映という観点から再検討し、これを通して風紀・暴力・統治の連関を通じたムスリム社会の今日的動態を捉えることに取り組んだ。

3. 研究の方法

本研究は以下の通り、2つの重点課題を設けた。

(1) 風紀の形成過程

イランやサウジアラビアなどで実施される風紀取り締まりに関する調査を通じて、社会で形成・維持すべき聖性とこれを犯すとされる要素がどう決定されてきたかについて、法整備を含めた制度化の観点から考察した。また旧ソ連中央アジア諸国やトルコを対象に、これらの国に根づいた共産主義・世俗主義に基づく風紀の通念が、イスラーム的風紀とどのような関係を築いてきたかについて、歴史資料と生活実態を照らし合わせて検討した。

(2) 風紀を反映した暴力・統治の射程

上記(1)についての考察を踏まえ、現代ムスリム社会で風紀の通念がどのような暴力・統治として反映されるかを、性秩序・規範を中心に検証した。性秩序・規範については先述の名誉殺人(処女性)やヴェール問題に強い関心が寄せられてきた。これらに加え、本研究では同性愛や猥褻、売買春やセックス・ツーリズム、以上に対する身体刑といった諸現象を取り上げ、ペルシャ湾岸・中央アジア・地中海東岸諸国、さらに「イスラーム国」のような実効支配領域を有する非国家主体を対象に、フィールドワークなどを通じて各地域における風紀の反映の射程を検討した。

4. 研究成果

ムスリム社会における風紀の通念とその影響を考察するとの研究目的に沿って、本研究は、東アジア、中央アジア、西アジア、ペルシャ湾岸地域、北アフリカといった広範な地域の事例を通し、現代ムスリム社会における規範の動態性を読み解くことに取り組んだ。また当初の研究計画を超え、本研究では参照項としてキリスト教、ユダヤ教、日本宗教の事例も取り上げた。これを経て、近代、ジェンダー、権力など、宗教と風紀の関係をとり上げる上での共通の問題を浮かび上がらせた。以上の主たる成果は高尾賢一郎・後藤絵美・小柳敦史編『宗教と風紀：聖なる規範から読み解く現代』(岩波書店、2021年1月)として刊行された。

本研究では現代社会における宗教の規範を、私的領域に留まるものでも、公的領域で制度化されたものでもなく、社会において守るべきとされる、あらゆる当為の法則に溶け込んだものと捉えた。この上で主たる成果(『宗教と風紀』)では、宗教の規範を公と私の枠組みを超え、また宗教・地域を横断して論じるための視座の提示を目指した。これにより当該成果は、特定の宗教や

地域についての専門性に加え、当該問題を宗教学、宗教社会学、歴史学、人類学、地域研究、ジェンダー研究等の複合的な視点から分析する学際的価値を有したと言える。加えて、当該成果には日本の排外主義やジェンダーギャップなど、今日的関心に応える研究も含まれており、十分な社会的意義も持っている。

またこの刊行に伴い、2021年6～8月にかけて、オンラインで計5回の公開講演を実施した。論集の執筆者15名の自己解題に基づき、外部有識者をコメンテーターに招聘して議論を深め、また成果を周知することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Kenichiro TAKAO	4. 巻 21
2. 論文標題 "Promotion of Virtue and Prevention of Vice as the Founding Ideology for Saudi Arabia and Iran"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『学習院女子大学紀要』	6. 最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kenichiro TAKAO	4. 巻 11
2. 論文標題 "Policing Public Morality in Modern Muslim Societies: 'Religious Police' in Saudi Arabia, 'Islamic State' and Aceh"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『イスラーム地域研究ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kenichiro TAKAO	4. 巻 3
2. 論文標題 "Sufism between Politics and Spirituality: Shaykh Ahmad Kuftaru and Syrian Ba'th"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Islamic Studies and Study of Sufism in Academia: Rethinking Methodologies	6. 最初と最後の頁 203-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 534
2. 論文標題 「サウジアラビアにおける「変革」と宗教界」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 92
2. 論文標題 「建国思想としての勤善懲惡 サウジアラビアとイランを事例に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『宗教研究』（日本宗教学会第77回学術大会紀要特集）	6. 最初と最後の頁 258-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 帯谷知可	4. 巻 14
2. 論文標題 「サマルカンドのイスラム・カリモフ廟を訪れて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中央アジア学会報』	6. 最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山紀子	4. 巻 13
2. 論文標題 「水への希求心 イランにおける2015年春フィールド日誌より」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『貿易風 中部大学国際関係学部論集』	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山紀子	4. 巻 7
2. 論文標題 「イスラームに覆われた自然崇拜 ウズベキスタンの水源信仰に関する2017年度基礎調査」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 「『生活の質向上プログラム』が示す『公共圏』拡大の兆しと社会的アクターとしての女性」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中東協力センターニュース』	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 33(25)
2. 論文標題 「女子力解放！サウジのファッション革命から見える国の明暗は」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ニューズウィーク日本版』	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 43(9)
2. 論文標題 「サウジアラビアにおける女性の運転解禁:女性たちはハンドルを握るのか」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中東協力センターニュース』	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 534
2. 論文標題 「ムハンマド皇太子の『改革』とジェンダー 後期レンティア国家における『管理された解放路線』のゆくえ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 45-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 43(11)
2. 論文標題 「サウジアラビアにおける政治エリート変容の兆し」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中東協力センターニュース』	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 43(12)
2. 論文標題 「ノルウェーにおけるアラブ人庇護申請女性らの戦略」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中東協力センターニュース』	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山空大	4. 巻 15
2. 論文標題 「ホロコーストを語ること 死者の記憶と正義についての試論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『死生学年報』	6. 最初と最後の頁 67-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山空大	4. 巻 22
2. 論文標題 「うたと祈り 癒しと救いをもたらす言語行為についての一考察」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『総合文化研究』	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuichi SUGIYAMA	4. 巻 34(1)
2. 論文標題 "Book Review: Christoph Werner, Vaqf en Iran: Aspects Culturels, Religieux et Sociaux, Leuven: Peeters Press, 2015"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annals of Japan Association for Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 113-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 90
2. 論文標題 「書評と紹介: MORIKAWA Tomoko and Christoph WERNER (eds.), Vestiges of the Razavi Shrine -Athar al-Razaviya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad, Tokyo: The Toyo Bunko, 2017」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『イスラム世界』	6. 最初と最後の頁 71-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 713
2. 論文標題 「イランにおけるシーア派聖廟の発展 第8代イマーム、レザーの廟を事例に 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『歴史と地理』	6. 最初と最後の頁 51-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuichi SUGIYAMA	4. 巻 11
2. 論文標題 "The Mausoleum of Imam Reza under the Islamic Republic of Iran: The Administration and Activities of the Twelver Shiite Imamate Mausoleum in Iran"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Area Studies	6. 最初と最後の頁 60-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上原 潔	4. 巻 92
2. 論文標題 「義と公正についての神学的一考察」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『宗教研究』（日本宗教学会第77回学術大会紀要特集）	6. 最初と最後の頁 234-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Seika WAZAKI, Adhajmjon Ashirov	4. 巻 none
2. 論文標題 "Markaziy Osiyoda tasavvuf ta'limotlari tarixini o'rganilish haqida ayrim mulohazalar"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 "I. f. r. d. m." mavzusidagi xalqaro ilmiy-nazariy anjuman materiallari	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Seika WAZAKI, Adhajmjon Ashirov	4. 巻 none
2. 論文標題 "O'zbek xalqning an'anaviy turmush-tarzida milliy va diniy an'analarni uyg'unlashuvi"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zamonaviy jamjiyatda innovatsion taraqqiyot va ijtimoiy-gumanitar fanlar integratsiyasi	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Masashi NARA	4. 巻 none
2. 論文標題 "A Change in the Ethnicity/Religiosity of the Hui People and Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings: International Symposium "Ethnicities in China and their Interaction with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE",	6. 最初と最後の頁 22-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良雅史	4. 巻 92
2. 論文標題 「書評：櫻井義秀編『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『現代中国』	6. 最初と最後の頁 144-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良雅史	4. 巻 12
2. 論文標題 「書評 Matthew S. Erie. China and Islam: The prophet, the Party, and Law」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『イスラーム世界研究』	6. 最初と最後の頁 266-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 532
2. 論文標題 「エルサレム問題とイスラーム過激派の知的退行」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 51-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤給美	4. 巻 21
2. 論文標題 「現代イスラームにおける「伝統」の継承とジェンダー：序論」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ジェンダー研究』	6. 最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤給美	4. 巻 21
2. 論文標題 「邦訳クムラーンとジェンダー 無意識の伝統主義」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ジェンダー研究』	6. 最初と最後の頁 157-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 538
2. 論文標題 「支配領域の喪失に見る「イスラーム国」の現在 - - パイアとヒスパを中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 16-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 「サウジアラビアにとっての安全保障とムスリム同胞団」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際安全保障』	6. 最初と最後の頁 97-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 63(1)
2. 論文標題 「黒田彩花著『イスラーム中道派の構想力：現代エジプトの社会・政治変動のなかで』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『オリент』	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 540
2. 論文標題 「サウジアラビアにおけるコロナ禍とビジョン2030のニュー・ノーマル」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 62-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 540
2. 論文標題 「末近浩太著『中東政治学入門』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 144-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TAKAO Kenichiro	4. 巻 56
2. 論文標題 "Women in the Promotion of Virtue and Prevention of Vice: Through the Case of "Religious Police" in Saudi Arabia"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ORIENT: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 141-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 95(2)
2. 論文標題 「大川玲子著『リベラルなイスラーム』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『宗教研究』	6. 最初と最後の頁 216-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 542
2. 論文標題 「現代中東における「寛容」の回廊」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 89-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 102
2. 論文標題 「バアス党の「公式」イスラームから見る現代シリアの宗教権威像 アフマド・クフターローとラマ ダーン・ブーティーを中心に」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アジア・アフリカ言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 63-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 47
2. 論文標題 「現代イスラーム世界をめぐる寛容のリアルポリティクス」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『哲学・思想論集』	6. 最初と最後の頁 125-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 巻 95(別冊)
2. 論文標題 「イスラーム世界における「寛容」のリアルポリティクス」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『宗教研究』(第80回学術大会紀要特集)	6. 最初と最後の頁 127-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常谷知可	4. 巻 104(1)
2. 論文標題 「ロシア帝国からムスリム女性の解放を訴える O.S.レベチェヴァとA.アガエフのイスラーム的男女平等論」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『史林』	6. 最初と最後の頁 113-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 「喫茶が紡ぐ豊かな時間 サウジ人女性の事例から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中東協力センターニュース』	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TSUJIGAMI Namie, TAKAHASHI Hidemi	4. 巻 39
2. 論文標題 “ Editor ’ s Note ”	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TSUJIGAMI Namie	4. 巻 39
2. 論文標題 “ Evolving Gendered Relations during Refugees ’ Settlement Process in Norway ”	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 137-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 69
2. 論文標題 「イスラームとジェンダーを考える5冊 「第三世界フェミニスト」の挑戦」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 144-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻上奈美江	4. 巻 953
2. 論文標題 「タリバン復権後のアフガニスタンの女性に対するわれわれの眼差し」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『學士會会報』	6. 最初と最後の頁 23-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山紀子	4. 巻 66
2. 論文標題 「コロナ禍におけるトルコ人のユーモア」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『信賴』(中部大学後援会会報)	6. 最初と最後の頁 9-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山紀子著、潘宏立訳	4. 巻 2021.2
2. 論文標題 「希茲魯信仰と媽祖信仰関係探訪～基於伊斯蘭水之聖者的關聯角度(ヒズル信仰と媽祖信仰:イスラームの水の聖者との関連から)」(2019年同名論文より加筆修正)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『媽祖文化研究』	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アドハム・アシーロフ著, 和崎聖日編訳	4. 巻 8
2. 論文標題 「旧ソ連中央アジアのスーフイズムと病気治療：ジャフル儀礼の手順について」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アドハム・アシーロフ著, 和崎聖日編訳	4. 巻 8
2. 論文標題 「中央アジア文明における宗教信仰と儀礼」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』	6. 最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和崎聖日	4. 巻 102
2. 論文標題 「ムハンマド=サーディク・ムハンマド=ユースフの軌跡：ウズベキスタン・イスラームにおける非党派主義と中道主義の萌芽過程」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アジア・アフリカ言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 33-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOYANAGI Atsushi	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 “ Liberal Protestantism and Christian Studies at Kyoto University: A Case Study of Seiichi Hatano ”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal for the History of Modern Theology / Zeitschrift fur Neuere Theologiegeschichte	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小柳敦史	4. 巻 69
2. 論文標題 「人文学の学問性と研究不正 -最近の事例より-」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海学園大学人文論集』	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小柳敦史	4. 巻 69
2. 論文標題 「無前提な学問としての神学 -「学問の無前提性」論争におけるトレルチー」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『北海学園大学人文論集』	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 178
2. 論文標題 「アフシャール朝期のイマーム・レザー廟 - 『アリー・シャーの巻物』から見る18世紀イランにおけるイマーム廟の組織と運営()」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東洋文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 396-436
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 1
2. 論文標題 「カージャール朝期作成のイマーム・レザー廟に関するワクフ関連史料をめぐって」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アジア・アフリカ言語文化研究 別冊』	6. 最初と最後の頁 111-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合洋尚・横田浩一・奈良雅史	4. 巻 1
2. 論文標題 「臺灣客家宗教的過去與現在：重返日本人類學家的田野地」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『客・観』	6. 最初と最後の頁 8-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山空大	4. 巻 11(2)
2. 論文標題 「現代ユダヤ思想における律法の意味を考える」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『京都ユダヤ思想』	6. 最初と最後の頁 121-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山空大	4. 巻 24
2. 論文標題 「不在の祖国としてのヨーロッパ ハンナ・アーレントのベンヤミン論にみる同化ユダヤ人の文化的アイデンティティ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『総合文化研究』	6. 最初と最後の頁 93-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計91件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「今日のムスリム社会に見るヒスパ：風紀取締り活動を事例に」
3. 学会等名 アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「これまでのアチェ州調査の概要」
3. 学会等名 東北アジア研究センター-災害人文学ユニット主催・2018年度第4回災害人文学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「建国思想としての勤善懲惡 サウジアラビアとイランを事例に 」
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「サウジアラビアにおける宣教の射程とワッハーブ主義」
3. 学会等名 上智大学イスラーム研究センター・早稲田大学イスラーム地域研究機構連携事業共同研究「アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状」2018年度第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「ウズベキスタンにおける女性の装いをめぐる30年」
3. 学会等名 シンポジウム「記憶と記録からみる女性たちの30年 装いにうつるイスラームとジェンダー」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chika OBIYA
2. 発表標題 "National Delimitation of Central Asia in the New National History of Uzbekistan"
3. 学会等名 International Symposium "Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「イスラーム・ヴェール着用問題から考える中央アジアの現在・過去・未来」
3. 学会等名 第14回京都大学附置研究所・センター シンポジウム 京都大学浜松講演会 (京都からの挑戦 地球社会の調和ある共存に向けて)「京大曼荼羅(きょうだいまんだら)」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山紀子
2. 発表標題 「女性と水源信仰 トルコ、イラン、ウズベキスタンをめぐる地域横断的試論」
3. 学会等名 2018年度第1回アレヴィーノベクタシ研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中山紀子
2. 発表標題 「トルコ共和国初代大統領ムスタファ・ケマル・アタテュルクの世俗化政策」
3. 学会等名 第4回アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の近代動態シンポジウム「西洋海洋中心文明のグローバル化とアジア・アフリカ社会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「第1回『沙漠の国から近代国家へ』」
3. 学会等名 調布市国際理解講座「石油依存からの脱却をはかるサウジアラビア～改革で社会は転換できるか～」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「第2回『ムハンマド皇太子の改革のゆくえ』」
3. 学会等名 調布市国際理解講座「石油依存からの脱却をはかるサウジアラビア～改革で社会は転換できるか～」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「ウズベキスタンの「芸能」文化への誘い その魅力と紹介」
3. 学会等名 「三井住友銀行 旅をより豊かにする教養講座「中央アジア・ウズベキスタン編」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「性と「つながり」のあり方 中央アジア南部地域の定住ムスリム社会」
3. 学会等名 金沢星稜大学人文学部会・教養教育部会講演会「つながりの比較文化 家族, コミュニティの起源・普遍性から未来を考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seika WAZAKI
2. 発表標題 "Madaniyatni o'rganish va visual antropologiya"
3. 学会等名 Farg' ona vodiysi etnologiyasi (O'zbekiston etnologiyasining dolzarb muammolari, 2019.3.17, O'zbekiston Respublikasi Fanlar akademiyasi tarix instituti Namangan davlat universiteti) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seika WAZAKI
2. 発表標題 "Metodologiya sifatidagi visual antropologiya"
3. 学会等名 O'zbekiston etnologiyasining dolzarb muammolari (O'zbekiston Respublikasi Fanlar akademiyasi tarix institute) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸山空大
2. 発表標題 「ヨーゼフ・カルレバハとフランツ・ローゼンツヴァイク」
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takao MARUYAMA
2. 発表標題 "Franz Rosenzweig 's Understanding of the Jewish Law in the Light of His Orthodox Contemporaries"
3. 学会等名 11th Meeting of European Association for Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山空大
2. 発表標題 「ホロコーストを語ること - 民族と宗教の記憶を紡ぐ - 」
3. 学会等名 東洋英和女学院大学死生学研究所連続講座・シンポジウム『生と死の物語 』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuichi SUGIYAMA
2. 発表標題 "Nader Shah ' s Urban Development Project in Mashhad during the Afsharid Period"
3. 学会等名 International Symposium "Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉山隆一
2. 発表標題 「イランにおける聖廟をめぐる：同国のシーア派信仰と社会」
3. 学会等名 認定NPO法人かわさき市民アカデミー主催講座・2018年度前期エクセレントI『世界を旅する イラン・ツアー』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原潔
2. 発表標題 「義と公正についての神学的一考察」
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上原 潔
2. 発表標題 「暴力の制御と暴力の行方：社会契約論の観点から」
3. 学会等名 北海道宗教研究会第5回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「「公益」の生成 中国雲南省昆明市回族社会における公益活動の事例から」
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会・分科会「宗教と開発の人類学 グローバル化するポスト世俗主義と開発言説」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「現代中国におけるダアワの展開：中国雲南省の事例から」
3. 学会等名 上智大学イスラーム研究センター・早稲田大学イスラーム地域研究機構連携事業共同研究「アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状」2018年度第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「トランスナショナルなムスリムの共在：中国浙江省義烏市の事例から」
3. 学会等名 東南アジア学会・北海道・東北地区特別例会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「エスニック・ツーリズム開発に伴う民族間関係の変化：中国雲南省における回族社会の事例から」
3. 学会等名 國學院大學共存学公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「敬虔さの経済：回族社会の変化とイスラーム復興」
3. 学会等名 東アジア人類学研究会第5回研究大会：分科会「「不真面目」なイスラーム実践から考える宗教的規範の再創造」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masashi NARA
2. 発表標題 "A Change in the Ethnicity/Religiosity of the Hui People and Tourism Development: A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China"
3. 学会等名 International Symposium "Ethnicities in China and their Interaction with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE"
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「インターネット・コミュニティとイスラーム復興：中国雲南省回族社会の事例から」
3. 学会等名 第4回北海道宗教研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岡豊
2. 発表標題 「紛争下のシリアについての調査と課題」
3. 学会等名 日本中東学会第34回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka TAKAOKA, Aiko NISHIKIDA, Shingo HAMANAKA
2. 発表標題 "Comparative study of the dynamics of the Syrian refugees in Jordan, Turkey and Sweden"
3. 学会等名 European Social Science History (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka TAKAOKA
2. 発表標題 "Experience and Consciousness of Migration among Arab citizen - Focusing on Syria"
3. 学会等名 25th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka TAKAOKA
2. 発表標題 "Do Syrians in Turkey want to return? -analyzing survey to SuTPs (2017)"
3. 学会等名 Turkish - Japanese Joint Research Workshop on Migration (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「無意識の伝統主義 邦訳クルアーンとジェンダー」
3. 学会等名 日本中東学会第34回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Emi GOTO
2. 発表標題 "Translations of the Qur ' an and Gender Justice: The Case of Izutsu Toshihiko ' s Work in Japan"
3. 学会等名 5th World Congress for Middle Eastern Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「エジプト女性運動の「長い120世紀」 連帯までの道のり」
3. 学会等名 シンポジウム「アジアの女性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Emi GOTO
2. 発表標題 "Brand Making and the Cultural Agenda: How the Muslim Swimsuit Was Created"
3. 学会等名 One Day Workshop: Globalization of Sportswear: Brand Marketing, Technology and Cultural Agenda, c.1880-2010s
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「サウジアラビアにおける政治議題としての「観光」」
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「南アジアにおけるムスリム社会の民族誌的研究」2020年度第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「宗教警察から見るイスラーム的風紀」
3. 学会等名 2020年度後期・日本イスラム協会公開講演会「「イスラーム的」な風紀を考える サウジアラビアの場合」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「サウジアラビアにおける宗教警察の役割と変容 宗教による統治は何と対立するのか」(自己解題)
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会(第3回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 TAKAO Kenichiro
2. 発表標題 "Islamic Values and Public Morality under the Saudi Secularization"
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars - Crafting a Global Future (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高尾賢一郎
2. 発表標題 「イスラーム世界における「寛容」のリアルポリティクス」
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「「ヴェールのない社会」から「ヴェールがあってもよい社会」へ？ ウズベキスタンの現状から」
3. 学会等名 ロシアユーラシア研究会（一般社団法人オープンガバナンスラボ）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「ヴェールを捨てたその後に スカーフ（ルモル）と民族帽（ドゥッピ）」
3. 学会等名 「砂漠の探究者」を探して 女性たちと百年（代表岡真理）（科研・基盤A 「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」内公募プロジェクト）「記録と記憶」第4回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「ウズベク人はいかに装うべきか ポストソ連時代のナショナルなドレス・コード」
3. 学会等名 岩波叢書「グローバル関係学」シリーズ刊行開始記念 Book Launch Series 4
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「中央アジアを越えてロシア帝国発ムスリム女性解放論をたどる旅 空間、つながり、共振」
3. 学会等名 CSEASワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「O.S. レベチェヴァとA. アガエフのムスリム女性解放論」
3. 学会等名 2020年度日本中央アジア学会年次大会（公開パネル）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「「よいスカーフ」と「悪いスカーフ」の攻防とその境界 現代ウズベキスタンのヴェール論争」（自己解題）
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会（第5回）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 帯谷知可
2. 発表標題 「オリガ・レベチェヴァのムスリム女性解放論 イスラーム的男女平等論の共振とその限界」
3. 学会等名 2021年度ロシア・東欧学会研究大会共通論題「旧ソ連、東欧のジェンダーの諸相」（歴史編）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 常谷知可
2. 発表標題 「相関型地域研究」
3. 学会等名 CIRASワークショップ「地域情報資源の共有化と相関型地域研究を通じた地域研究の拡がり」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高岡豊
2. 発表標題 「「イスラーム国」の下での理想的生活」(自己解題)
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会(第3回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「女性の消費と起業実践からみる「イスラーム」と風紀」
3. 学会等名 2020年度後期・日本イスラム協会公開講演会「「イスラーム的」な風紀を考える サウジアラビアの場合」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「サウジアラビア：国家の理念と現実」
3. 学会等名 上智大学プロフェッショナル・スタディーズ「イスラームの政治原理と経済原理：イスラーム諸国の類型的理解」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「サウジアラビアの社会変革とジェンダー秩序 国家と宗教、SNS公共圏」(自己解題)
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会(第1回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「映画に見るイスラーム世界のジェンダー変容」
3. 学会等名 イスラーム映画祭7トークセッション8(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 辻上奈美江
2. 発表標題 「サウジアラビア：枯渇する資源とジェンダー」
3. 学会等名 東京西ロータリークラブ(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「中央アジアのスーフィズム：ジャフル儀礼からみる共生の思想」
3. 学会等名 JFE財団アジア歴史研究助成「スーフィズムに基づくアジア型イスラームの共生思想とその実践」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「タラークをめぐる非ハナフィー派学説の到来 旧ソ連中央アジア南部地域の事例」
3. 学会等名 第3回「中央ユーラシアのムスリムと家族・規範」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「中央ユーラシアのムスリム家族と女性：規範的言説をめぐるつながりの研究」
3. 学会等名 第6回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ』（東北大学研究所若手アンサンブルプロジェクト）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「世俗主義国家の中のイスラームと性：旧ソ連・中央アジアの場合」（自己解題）
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会（第1回）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「民族誌映画の制作過程：中央アジア・イスラームの聖者崇敬と民間療法に関する2作品」
3. 学会等名 令和3年度総合研究大学院大学「映像話法の理論と実践」講義
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「ウズベキスタンの生活文化と芸能」
3. 学会等名 “Echoes of Calling” スタディーグループ・レクチャー / 信州大学人文学部 多文化交流サロン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「水の管理制度と農村生活：ソ連解体後のウズベキスタン領フェルガナ盆地の例から」
3. 学会等名 第6回比較水利史研究会（科研・基盤B「アフロ・ユーラシア乾燥・半乾燥地域の水利権に関する比較史研究」）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 和崎聖日
2. 発表標題 「現代ウズベキスタンの聖者崇敬：クルアーン、詩、イスラーム学論争」
3. 学会等名 “Echoes of Calling” スタディーグループ・レクチャー その2 / 信州大学人文学部 多文化交流サロン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 WAZAKI Seika
2. 発表標題 "Viziual antropologiyaning dolzarb muammolari"
3. 学会等名 Ozbekston etnologiyasining dolzarb masalalari va yonalishlari
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上原 潔
2. 発表標題 「暴力の組織化と風紀の維持 移民・難民・排外主義を事例として」(自己解題)
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会(第3回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 GOTO Emi
2. 発表標題 "Translations of the Qur'an and Gender Justice: The Case of Ryoichi Mita's Work in Japan"
3. 学会等名 Knowledge on the move: connectivities, frontiers, and translations in Asia
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 GOTO Emi
2. 発表標題 "Connecting the Arabic Past to the Japanese Present: Ryoichi Mita's Translation of the Qur'an"
3. 学会等名 Inscribing Knowledge and Power in Muslim Societies
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 絵美
2. 発表標題 「「イスラームのルール」はどうつくられるのか - - ムスリム女性の装いをめぐる事例から」(自己解題)
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会(第4回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「「シャリーア」と女性」
3. 学会等名 緊急集会「アフガニスタン問題を考える イスラームとジェンダーの視点から」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 GOTO Emi
2. 発表標題 "Theology of Actresses: Hijab, Feminism, and Islam in Egypt"
3. 学会等名 オンライン研究会「人と知が動くとき：アジアにおける旅、移動、メディア」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 GOTO Emi
2. 発表標題 "One Hundred Years of Japanese Translations of the Qur'an: 1920-2019"
3. 学会等名 GloQur Online Lecture: The Qur ' an in East Asia
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「イスラームにおける女性観」
3. 学会等名 一般社団法人平和政策研究所 政策研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「イスラム社会とジェンダー」
3. 学会等名 西東京市谷戸公民館主催 女性のための講座「これだけは知っておきたい！身近な世界を知る講座」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「イスラームがつなぐ装い ヴェールの流行とその行方」
3. 学会等名 公開講座 東京外国語大学オープンアカデミー「イスラームがつなぐ世界」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤給美
2. 発表標題 「ヴェールの流行とファッション化」
3. 学会等名 横浜市立大学都市社会文化研究科・国際教養学部 第3回ジェンダー研究会「イスラーム世界の女性たちと日々の生活」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤給美・大塚修・荒木徹也
2. 発表標題 「ハラール産業とイスラム圏の食文化」
3. 学会等名 SHIBUYA QWS東京大学イベント 東京大学コミュニケーションセンター（UTCC）シリーズ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小柳敦史
2. 発表標題 「有賀鐵太郎による基督教学の構想－未公開資料の調査より－」
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小柳敦史
2. 発表標題 「二〇世紀初頭ドイツの裸体文化とキリスト教 裸体は罪か？」（自己解題）
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会（第1回）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山隆一
2. 発表標題 「サファヴィー朝最末期におけるイマーム・レザーの奇蹟譚をめぐって」
3. 学会等名 東文研シンポジウム「ムハンマドの血筋とムスリム：預言者一族をめぐる多様な語りと語り手たち」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SUGIYAMARYuichi
2. 発表標題 Tarikh-e Astan-e Qods-e Razavi az Manzar-e Yek Mohaqqueq-e Zhaponi
3. 学会等名 Selsele-ye neshast'ha-ye zhaпон-shenashi-ye doshanbe'ha-ye akhar-e mah, neshaste-ye bistom, Daneshkade-ye motale'at-e jahan, Daneshgah-e Tehran
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 中国におけるハラールフード
3. 学会等名 第568回みんなばくウィークエンド・サロン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 出稼ぎ先は「小さな国連」 国際貿易都市・浙江省義烏市に暮らすムスリムたち
3. 学会等名 第501回みんなばくゼミナール
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 非イスラーム世界のイスラーム：中国におけるムスリムの宗教性と民族性をめぐって
3. 学会等名 2020年度中東 イスラーム教育セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「中国における宗教の人類学：成立宗教を中心とした研究動向」
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究「社会・文化人類学における中国研究の理論的定位置：12のテーマをめぐる再検討と再評価」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奈良雅史
2. 発表標題 「アルコール排斥の多義性と風紀の形成 現代中国における回族の実践と国家による宗教管理」
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会（第5回）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NARA Masashi
2. 発表標題 Formation of Public Morality: Entanglement of the State Regulation of Religion and the Islamic Revival in Contemporary China
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars - Crafting a Global Future (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丸山空大
2. 発表標題 「ユダヤ人の同化についての ハンナ・アーレントの見方」
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丸山空大
2. 発表標題 「伝統主義の撤退戦 近代ドイツのユダヤ教正統派による性道德矯正の試み」（自己解題）
3. 学会等名 『宗教と風紀』刊行記念「宗教と風紀」連続講演会（第2回）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丸山空大
2. 発表標題 「ハンナ・アーレントにとってのユダヤ民族」
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丸山空大
2. 発表標題 「ローゼンツヴァイクの思想は実存思想か？」
3. 学会等名 実存思想協会研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 高岡豊・溝淵正季編 『「アラブの春」以後のイスラーム主義運動』	

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 亜紀書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 『イスラーム宗教警察』	

1. 著者名 帯谷知可	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60 章』	

1. 著者名 高岡豊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 高岡豊・溝淵正季編 『「アラブの春」以後のイスラーム主義運動』	

1. 著者名 Namie TSUJIGAMI	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 258
3. 書名 Sahar Khamis and Amal Mili eds., Arab Women's Activism and Socio-Political Transformation: Unfinished Gender Revolutions	

1. 著者名 帯谷知可	4. 発行年 2018年
2. 出版社 CENTER FOR INFORMATION RESOURCES OF AREA STUDIES	5. 総ページ数 59
3. 書名 帯谷知可・後藤絵美編 『装いと規範2 更新される伝統とその継承』(CIRAS Discussion Paper No. 85),	

1. 著者名 和崎聖日	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60 章』	

1. 著者名 丸山空大	4. 発行年 2018年
2. 出版社 『フ란ツ・ローゼンツヴァイク 生と啓示の哲学』	5. 総ページ数 504
3. 書名 慶應義塾大学出版会	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 423
3. 書名 翻訳：「国家・社会の関係から文化の政治学を考察する：中国における人類学的研究の概観」（金光億） 韓敏編 『家族・民族・国家：東アジアの人類学的アプローチ』	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 215
3. 書名 山田敦士編 『中国雲南の書承文化：記録・保存・継承』	

1. 著者名 奈良雅史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 468
3. 書名 翻訳：「ノースカロライナ州沿岸地域の三つの町における観光と開発」（ジョン・グレゴリー・ベックノアリス・シアール・ラビ）ヴァレン・L・スミス編、市野澤潤平・東賢太郎・橋本和也監訳『ホスト・アンド・ゲスト：観光人類学とはなにか』	

1. 著者名 後藤絵美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 504+ix
3. 書名 松山洋平編『クルアーン入門』	

1. 著者名 高尾賢一郎・後藤絵美・小柳敦史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 370
3. 書名 『宗教と風紀 聖なる規範 から読みとく現代』	

1. 著者名 高尾賢一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 224
3. 書名 『サウジアラビア 「イスラーム世界の盟主」の正体』	

1. 著者名 GOTO Emi, OBIYA Chika, eds.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	5. 総ページ数 215
3. 書名 Created and Contested: Norms, Traditions, and Values in Contemporary Asian Fashion	

1. 著者名 福田宏・後藤絵美編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 『「みえない関係性」をみせる』	

1. 著者名 長沢栄治監修・後藤絵美・鳥山純子・勝沼聡・平井文子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 『13歳からのイスラーム』	

1. 著者名 奈良雅史編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 148
3. 書名 『多元化する台湾のムスリム・コミュニティ (SIAS Working Paper Series No.36)』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 紀子 (NAKAYAMA Noriko) (00288698)	中部大学・国際関係学部・教授 (33910)	
研究分担者	高岡 豊 (TAKAOKA Yutaka) (10638711)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	和崎 聖日 (WAZAKI Seika) (10648794)	中部大学・人文学部・講師 (33910)	
研究分担者	帯谷 知可 (OBIYA Chika) (30233612)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	辻上 奈美江 (TSUJIGAMI Namie) (30584031)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	上原 潔 (UEHARA Kiyoshi)		
研究協力者	後藤 絵美 (GOTO Emi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小柳 敦史 (KOYANAGI Atsushi)		
研究協力者	杉山 隆一 (SUGIYAMA Ryuichi)		
研究協力者	奈良 雅史 (NARA Masashi)		
研究協力者	丸山 空大 (MARUYAMA Takao)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関